



志津南 news

志津南ホームページ
http://shizu373.net

志津南学区の人口 (2/28 現在)
世帯数 2,280 総人口 6,299 人
発行
志津南学区まちづくり協議会
Tel(fax) 077-563-6206
E-mail shizuminamimachi@gmail.com

新旧合同の理事会開催 定時総会原案、一部修正して承認



まち協の平成29年度第11回理事会が3月24日、新旧

②平成29年度決算報告および監査報告

合同理事会として開催されました。写真、既に行われていた新クリーンセンターが3月に完成した。写真、既に行われていた新クリーンセンターが3月に完成した。写真、既に行われていた新クリーンセンターが3月に完成した。

合同理事会として開催されました。写真、既に行われていた新クリーンセンターが3月に完成した。写真、既に行われていた新クリーンセンターが3月に完成した。

合同理事会として開催されました。写真、既に行われていた新クリーンセンターが3月に完成した。写真、既に行われていた新クリーンセンターが3月に完成した。

新クリーンセンターが完成



現クリーンセンターの隣接地で建設が進められていた新クリーンセンターが3月に完成しました。写真、既に行われていた新クリーンセンターが3月に完成した。写真、既に行われていた新クリーンセンターが3月に完成した。

年間の工事で最新の設備が導入され、焼却で生じる熱を利用して施設全般の電力を賄い、余剰分は売電し有効活用を図っています。排ガス基準値も法律で定められた基準値を大幅に下回りダイオキシン類は10分の1に抑えられています。旧クリーンセンターは今後3年計画で解体作業が行われます。その後の跡地活用については、現在では白紙の状態です。

初のボランティア懇親会開催



くとも5月になりますので、5月以降の理事会で正式に承認されることとなります。

ボランティアの方々の手配した食事や花澤会長が調理した豚汁を囲み、和やかな雰囲気です。参加団体が前に出て、全身を使った脳トレ体操や歌を歌いながら体操するなど参加者全員で取り組む場面も見られました。約2時間の懇親会は盛況のうちに終わりました。

志津南学区では、さまざまな方が自主的にボランティア活動をされています。そうした活動に支えられ、今のこの地域があります。ボランティア活動は、近年特に活発になっており、古くからの団体だけでなく、近所の方同士や想いを同じくする方同士で新しい団体を立ち上げ、活動を始められる方もいます。また、反対に団体に所属せず、個人で活動をする方も多数います。

からは、地域への周知、そして人材面や活動費など資金面の支援体制の充実が望まれました。



立食形式で和やかに食事

まち協や町内会・自治会には、今後さらに、地域が必要とされているボランティア活動と地域住民をつなぐ機会を拡大、充実していくことが期待されます。



山本テモテ 若草一丁目

12歳オス。非常に人使いが荒い、織田信長タイプ。風呂だよ〜と呼ぶと、2階から嬉しそうに階段を降りて来て、家内と一緒に入室、風呂蓋の上でお肌の手入れとかでくつろいでいます。全ての場面でそれらしい発声で命令します。(例えば、ごは〜ん)



きまぐれ猫ってぼくのこと？

いつまでもこの日々を忘れない

旅立ちの季節です。学校や保育園、それぞれの課程を修了した卒業生たちは、大きな希望を胸に学び舎を巣立ちました。新しい環境へ、さらに大きく羽ばたいて欲しいと思います。



高穂中 自信と誇りを持って飛躍を
高穂中学校(太田光則校長)の第34回卒業式が3月13日、同校体育館で行われ高穂の丘を303人が巣立ちました。写真。

太田校長から一人ひとりと卒業証書を授与され、胸を張って壇上に立つ姿が大きなスクリーンに映し出されると、保護者もわが子の晴れ姿を感激の面持ちで見つめていました。
校長は、「グライターのようになんかの力で飛べない人間ではなく、飛行機のように自分の力で飛べる人間にならう。

志津南小学校(水野晃校長)でも第31回卒業式が3月16日、同校体育館で行われ、89人が小学校生活を終え、学び舎を後にしました。写真。
水野校長から一人ひとりに卒業証書を授与され、壇上のスクリーンには、これぞといわんばかりの笑顔の写真が映し出され、保護者



志津南小 夢を高く積み上げて

う。与えられた事をこなすのではなく自分の力で切り開く力をそして豊かな発想を持ち、努力を惜しまずに進んでほしい。高穂中の三つの校訓(思索 友愛・創造)を、そして家族への感謝の気持ちをお忘れなく。

「。と祝辞を述べました。答辞では、卒業生を代表して志津南学区の今井愛音さんが「平和へのバトンをそして運動会、合唱コンクールと高穂の伝統を引き継いでほしい」と在校生へ。絆を紡いだ友、親、先生方



くるみ保育園とした姿がスクリーンに

らは6年間の成長を感じたようです。
卒業証書授与の後、水野校長は「挑戦できるチャンスをお逃がさず、そのチャンスに勇気を出してチャレンジすることや、チャレンジを積み重ねることでは成長し、チャレンジできる。夢を持って、夢を高く積み上げて」と励ましの祝辞を述べました。

緑波くるみ保育園(服部登志夫園長)では3月24日、第32回卒業式が行われ、5クラス47人が巣立ちました。写真。
卒園児たちはあたたかい拍手に迎えられ、誇らしげに胸を張って元気よく入場しました。全員で園歌を合

最後に卒業生たちが「勇気を翼にこめて希望の風に乗って、夢を託して旅立ちとう」と合唱しました。

続いて卒園児たちは壇上に並び会場の皆さんに向かって、楽しかったこと、頑張ったことを元気よく呼びかけ「さようなら僕たちの保育園、桜の散る頃は1年生」「みんなの声、手のぬくもりを忘れない、いつまでも。そして元気・勇気・笑顔ありがとう」と手話で元気いっぱい歌い別れを惜しまれました。

服部園長は「自然豊かな環境の中、パステルカラーの五輪の花飾りのお遊戯やリレーなど頑張った運動会、そして園庭で採れた野菜は給食に、いろんな行事に取り組んだ四季折々の思い出を映像と共に語りかけ、一緒に過ごして健やかに成長した子どもたちを送り出すことができ、これに勝る喜びはありません、いつも笑顔をお忘れなく」と祝辞を述べられました。

そして地域の皆さんへ感謝を述べ「試練も乗り越えていきます」と力強く誓いました。
卒業生は合唱隊形になり「友よ旅立ちの時」を合唱し、体育館に美しいハーモニイが響き渡りました。

山路正之PTA会長は「人生の6割は笑って過ごす。あと4割は辛くて泣く。いくら泣いても半分以下なのだから、いっぱい泣いていっぱい笑って生きてください」と笑顔の大切さを祝いました。

子育てグループもお別れ会

志津南学区の各子育てグループがそれぞれ保育園・幼稚園へと巣立つ友達を囲んでお別れ会を開きました。

「若草おやこっこクラブ」がまちづくりセンターで、「きらりん」はかがやきの丘きらり会館で共に3月8日、「若草どんぐりクラブ」は若草第三集会所で3月14日、追分南子育てサロン」は追分南会館で28日でした。

若草おやこっこクラブ

若草おやこっこクラブのお別れ会には親子10組の会員が参加し、民生委員の手助けをうけ、ホットケーキ



声をそろえ「いただきます」

作りを楽しみました。

いつもはお母さんが作ってくれるホットケーキですが、この日はエプロン姿の子どもたちが主役。ハラハラするお母さんとは対照的に、自信満々な顔つきでホットプレートに生地を流して自分でひっくり返す子どもたち。上手に焼けたホットケーキに、用意された果物や生クリームを自分流にトッピング。とってもおいしそうなホットケーキが出来上がり、達成感でキラキラした子どもたちの顔が並びました。声をそろえて「いただきますー！」

4月から新しい世界でがんばる子どもたちのたくましさや笑顔溢れる楽しいお別れ会になりました。

きらりん

きらりんのお別れ会には親子28人が参加し、いつものようにお誕生会や歌を歌



プレゼントに大満足

お薬

続

<1>

よもぎやま話

柘榴の風格

私の家に一本の柘榴（ぎくろ）の木があります。鳥取市の実家から、父がモミジ、沈丁花（しんちょうげ）、松などとともに大阪の家に持ち帰り、移植して慈むむように世話をしていたものです。

私が若草に家を持った時にこれらの一部の苗木を貰

い受けたのですが、このうち移植が難しい沈丁花だけは残念ながら枯らしてしまいました。しかし、松と柘榴は立派な庭木に育って、



今では先祖が私達を守ってくれてくるような気がしています。

私が柘榴を選んだのは、薬学の道に進んだ縁で何か有用な薬になる木を身近に

置いたからです。このうす。というのも、柘榴の樹皮根皮を乾燥させたものは石榴皮（せきりゆうひ）と呼ばれる生薬

は、インペレチリンという有効成分を含んでいて、古来、消化管駆虫薬として用いられてきたから

また、タンニンを含む果皮の煎じ汁は下痢、止血、「佝僂」の趣きを感じます。

塗布する皮膚薬となるそうです。でも最近はその優れた市販薬があるので私は柘榴を薬として使ったことはありません。

移植後十数年経ったある年の春、すっかり忘れていた柘榴の木に真っ赤な花が初めて咲き、その秋にはいくつもの立派な実ができて大変感動したものです。

柘榴の実が果実としてはあまり美味とは言えず、またちょっと食べにくいのですが、熟した実の外観には古武士のような風格があり、「佝僂」の趣きを感じます。

（薬剤師 太田俊作）

グルメサロンで楽しいひと時



追分町内会「元氣くらぶ」は3月9日グルメサロン（おでん&おにぎり）を開催し、31人が参加しました。写真。ボランティアの方に数日前から買い出しや準備をしてもらい、当日は大鍋6つ分を用意してもらいました。

牛すじ、大根、たまご、こんにゃく、ごぼう...どれもおいしい味付けで、参加者で完食しました。特にだいきん、牛スジが人気で一番過ぎました。

その後、民生委員の電子オルガン演奏で「春よ来い」「早春賦」「川の流れるように」「琵琶湖周航の歌」をみんなで歌い楽しいひと時を過ぎしました。

お礼のカード作り



追分南子育てサロンのお別れ会には親子32人が参加し

最後にになりましたが、各グループのこのような機会を下さって下さった民生委員の皆様によりお礼申し上げます。

った後、みんなでパフェを作って一緒に食べ、楽しい時間を過ごしました。最後にお別れのプレゼントを1人ずつもらって、子どもたちは大満足でした。

公園で遊んでくれた立命館大学のボランティアのお兄さんともお別れになるので、みんなでお礼のカードを作りました。

「鬼ごっこ、だるまさんが転んだ」を公園で遊んでくれてありがとう。また、遊びに来てください。可愛い絵やお礼を書いたプレゼントができがありました。

その後、みんなで歌をうたったり、プレゼントを買ったたり、プレゼントを貰った、笑顔いっぱい楽しいひとときを過ごしました。最後に中村成太町内会長も参加して、「町として子育てに応援を惜しまない」と嬉しい言葉でお母さん達にエールを送られました。

米原・大野木地区と交流会



志津南学区社会福祉協議会(上田恒章会長)は3月12日、米原市大野木地区と交流会を行いました。写真。これは草津市社会福祉協議会、米原市社会福祉協議会のご尽力で行われたもので、従来の訪問型見学研修から、両者が膝を交えて「活動を支えている想い」「活動のところが楽しい」「こんな所が素晴らしい」「今後への熱い思い」など意見を交換し

やさしき学級 楽しく閉講式



志津南やさしき学級が3月7日、志津南まちづくりセンターで平成29年度閉講式を開催し、35人が参加しました。写真。今年度のやさしき学級活動報告の後、年度のテーマ「笑顔で仲良く支え合い」を実践し、休

まず参加した13人の皆勤賞が発表されました。「笑って学べる!詐欺防止講座」と題し、ひよっこりひよたん島田の皆さんを講師にお迎えしました。白黒ダンスをはじめ、歌遊び、楽器演奏、腹踊り、そして二人羽織による詐欺防止対策の寸劇など盛り沢山な内容で、会場はおおいに盛り上がりました。オレオレ詐欺という身近な例を面白おかしく演じていたこと、被害に遭わなために対処法などを楽しく学ぶ事ができました。終始笑いが絶えず、学級生からは「たくさん笑って、本

交流するスタイルに変えて実施されました。米原市大野木地区は正面に伊吹山を望む戸数139世帯、人口403人の小さな町です。平成23年9月から取り組んでいる地域福祉活動の成果が素晴らしい。昨年には地域の活性化で総務大臣表彰を受けています。全国から見学が絶え間なく続く団体で、昨年10月に独立した組織「一般社団法人大野木長寿村まちづくり会」を設立し活動しています。

「実行するための対策」に取り組んでいったことが今日の大野木地区の「成功の鍵」だと思います。実行するためには何を解決するかという「課題解決型」の手法です。今回の交流会では「なせば成る」の思いを強くしました。(上田 恒章)

志津南まちづくりセンターは、次の要領で「パソコン入門講座」を開講します。▽日時 5月8日・10日・15日・17日(火・木) 13時~16時(全12時間)

この違いは、雑巾の動きの方向にあった。寄せ集められ、あるいは吸着したごみ、雑巾を端で止めて引き返すときに置き去りにされるのだという。この理屈にしたがえば拭き掃除の基本は、とにかく雑巾を止めずに動かすことにつきる。引き返すときは

パソコン入門講座

▽場所 志津南まちづくりセンター 多目的室
▽内容 マウスの使い方から始め、スムーズな文字入力の仕方を学びます。
▽ワードがインストールされたパソコンをお持ちください。持ち込めない場合、ご相談ください。
▽定員 先着順 10人
▽参加費 2000円
▽申し込み 前日までに申込書と参加費を志津南まちづくりセンターへお持ちください。

ちづくりセンターまでお持ちください。(電話受付不可) 問い合わせ 志津南まちづくりセンター 電話(563) 62006

資源回収
□毎月第1・3日曜日
★若草1~5丁目町内会
□毎月第2・4日曜日
★若草6~8丁目町内会
岡本西町内会
□毎月第2・4土曜日
★かがやきの丘町内会
□毎月第1・3土曜日
★フォレストローズ子供会
□毎月第2日曜日
★向山子供会

折々の記



「四角な座敷を丸く掃き」という諺がある。「居候」を冠した川柳もある。横着でいい加減な仕事をする人のたとえである。この諺を反面教師として、掃除は隅々まできちんとするもの、幼少の頃から教えこまれてきたものである。あるとき老舗の番頭さんが、商用で同業者をたずねた。用談待ちのひととき、近くで机を拭いている二人の若いお手伝いさんの姿が目に入った。一人は左端から拭いていき、右端でいっ

折り返しではなくて、ロータリーターンで方向転換をする。要するにレシプロカル運動ではなく、一種のロータリー運動である。公民館のフロアや体育館のアリーナのモップがけにも、この基本が忠実に生かされている。方向転換はロータリーターンで行い、とにかくモップを押し進めていく。複数のモップの場合、少し位置をずらして並進し、ロータリー部分では軌跡を重ねて前進し、逐次方向転換をしていく。よせばいいのに、ある「フキ女会」でこの理屈をひけらかした。「重箱や窓ガラスはどうするのよ」と、現実を直視する女性たちに軽く一蹴されてしまった。(へりくつや)